

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008～2009

課題番号：20830135

研究課題名（和文）

自動車静脈産業におけるマテリアルフローコスト会計の実行可能性に関する研究

研究課題名（英文）

A meaning of MFCA to Vein Industry: application to car dismantler

研究代表者

木村 眞実（KIMURA MAMI）

保健医療経営大学 保健医療学部・講師

研究者番号：80516865

研究成果の概要（和文）：

本研究では、静脈産業、とりわけ自動車解体業の生産の実態を明らかにし、自動車解体業へのマテリアルフローコスト会計（以下、MFCA という）の実行可能性と、その意義を考えることを目的としている。

研究の結果、自動車解体業の生産の実態が明らかとなった。また、MFCA の原価計算としての特徴とは、生産プロセスからのアウトプットを、「正の製品」と「負の製品」として考える点にある。その点、自動車解体業においても、生産プロセスにて「正の製品」および「負の製品」がアウトプットされるため、自動車解体業へ MFCA を適用することは可能なことが明らかとなった。

さらに、産業という枠組みにおいてある製品が生産されると仮定し、そこでの生産プロセスを考えた場合に、MFCA を静脈産業に適用する意義を検討した。その結果、産業全体としての「負の製品」が静脈産業においてアウトプットされる「負の製品」として現すことができる。この「負の製品」を物量情報だけでなく金額情報をも示すようにすることで、資源循環型社会を支える静脈産業が、「正の製品」のアウトプットによって、産業全体の「負の製品」の削減に貢献していることを、わかりやすく示すことができる。つまり、静脈産業の社会的貢献を示すとともに、彼らの社会的評価が高められることを可能とすると考えられる。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to show that what kind of production process vein industry has introduced, and to demonstrate application possibility of the material flow cost accounting (MFCA) to vein industry and the meaning to be application possibility, with focus on car dismantlers.

In conclusion, (1) The feature as cost accounting of MFCA is in the point that considers the output from a productive process to be as "a positive product" and "a negative product." Also in car dismantler, "a positive product" and "a negative product" are outputted in a productive process. Therefore, it is possible to apply MFCA to vein industry. (2) "The negative product" as the overall industry can express with applying MFCA to vein industry as "a negative product" outputted in vein industry. By not only amount-of-resources information but amount-of-money information being shown for this "negative product", the vein industry supporting a resource recycling society can show intelligibly that it contributes to reduction of "the negative products" of the overall industry by output of "a positive product." That is, it will make it possible to raise their social evaluation, while the social contribution of vein industry is shown.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	860,000	258,000	1,118,000
2009年度	750,000	225,000	975,000
総計	1,610,000	483,000	2,093,000

研究分野：会計学

科研費の分科・細目：環境影響評価、環境政策、経営学、会計学

キーワード：環境会計、マテリアルフロー、静脈産業、資源循環

1. 研究開始当初の背景

(1)初期の研究動向

環境省等による環境報告のガイドラインが存在するものの、企業による環境報告は種々様々な形態をとっているのが実態である。このため、当初の会計学における研究動向は「環境報告の実態を把握すること」に焦点があてられている。たとえば河野[2001]、河野・朴[2002]、朴[2004]、および 國部・平山編著[2004]では、主に上場企業を対象とし、環境に関する報告書に、頁数・アンケート調査票・環境方針といった調査項目が記載されているかどうかを調べる方法を採用している。

その結果、記載内容と各業種の、ある程度の相関関係が明らかにされている。たとえば次のような結果である。製造業は、製品製造過程にて環境負荷物質を排出する可能性が高いため、非製造業よりも、物量情報を記載する傾向にある(河野[2001]p.22)。最終消費者との関連度が高い業種は、開示度が高い(國部・平山編著[2004]p.43)。そして、これらの研究にて明らかになった課題は、環境報告の、企業間の比較可能性の欠如である。(河野・朴[2002]および朴[2004]については後述の参考文献を参考されたい。)

(2)最近の研究動向

上述のような環境報告の内容分析は収束し、最近の研究動向は「環境管理会計」へと向かっている。外部への情報開示を目的とする環境会計を「外部環境会計」といい、内部管理目的の環境会計を「環境管理会計」という。「環境管理会計」では、上述した当初の研究にて課題とされていた比較可能性の問題は生じない。というのも「環境管理会計」は企業内部の固有の問題を解決するための手法だからである(國部編著[2004]p.21)。

環境管理会計の基本的な手法はいくつかあるが、現在、他の手法よりも経営者のインセンティブが高い、マテリアルフローコスト

会計(以下、MFCA)が注目されている。というのもMFCAによって、良品を構成しない無駄分(マテリアルロス)が把握され、無駄分を削減することによって、環境負荷の低減のみならずコストの削減をも達成するからである(國部編著[2004]p.37)。たとえば「特集 マテリアルフローコスト会計の実践」『企業会計』2007年11月号における、日東電工への導入事例では、MFCAによって、無駄分つまり「負の価値」が可視化され、その結果、日東電工は資源生産性の最大化・コストの最小化への課題に向かって前進しているということである。

2. 研究の目的

製造業や流通業など製品を消費者に供給する側を「動脈産業」とよぶのに対し、「静脈産業」とは、使用済みとなった製品を回収し、再使用、再資源化、および適正処理(廃棄)を担う産業であり、リサイクル事業や廃棄物処理業をいう。

本研究期間内には、上述の「静脈産業」のうち、「自動車解体業」への、MFCAの実行可能性を明らかにする。

3. 研究の方法

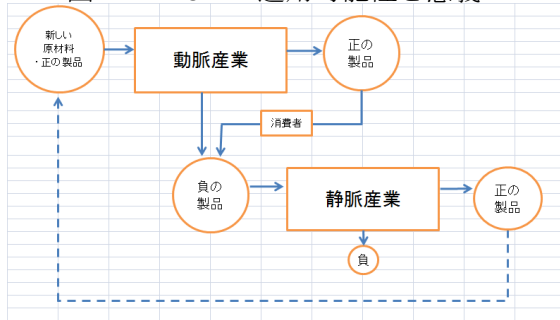
平成20年度は以下の(1)から(3)の項目までが範囲である。現地調査による情報収集が中心となる。

(1)自動車解体業の業務内容と市場状況を把握する。

外川[2002]によれば、解体業の主な仕事は中古「部品取り」とそのための「前処理」である(p.75)。後者には、廃車からの燃料・オイル・冷却液の液抜きなどの処理も含まれる。基本的にほとんどの解体業者が同様の手順にて廃車を解体し、中古部品取りを

することによって、静脈産業の社会的貢献を示すとともに、彼らの社会的評価が高められることを可能とすると考えられる。

図 MFCA の適用可能性と意義



出所：筆者作成

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

①木村眞実、社会的パースペクティブによる環境会計の考察—MFCAを対象として—、九州経済学会年報、査読有、第47集、2009

〔学会発表〕(計2件)

①木村眞実、静脈産業におけるマテリアルフローコスト会計—自動車解体業を対象として、第24回会計理論学会、2009年10月、拓殖大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村眞実 (KIMURA MAMI)

保健医療経営大学・保健医療学部・講師

研究者番号：80516865

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：